

**2021 年度 織田きもの専門学校**

**学校関係者評価報告書**

**(令和 3 年度)**

**評価対象期間**

**2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日**

**織田きもの専門学校**

**学校関係者評価委員会**

## 1. はじめに

2021年（令和3年）4月1日～2022年（令和4年）3月31日を評価対象期間とした自己点検評価報告を元とした織田きもの専門学校学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここにご報告いたします。

本校が社会およびきもの業界に対して高い価値を提供すべく、より良い教育を目指すため、委員の皆様にご評価とご意見をお伺いいたしました。学校関係者評価の結果を踏まえ、学校運営の更なる改善と教育の質向上に努めて参ります。

開催日：2022年4月25日（月）15：00～16：30

会 場：織田学園第8校舎 グリーンホール

## 2. 学校関係者評価委員（敬称略）

氏名	所属	役職等	種別
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	顧問	元高等学校教員
上乘 幸喜	株式会社 三松	取締役	関連業界 企業役員
佐々木 希美	キモノ葉月	店長	関連業界 卒業生

## 3. 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価方法

学校より自己評価の各項目について関連資料を交えて報告と説明を行い、自己評価の評価点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切・未実施…1）が適切か適切でないかを学校関係者評価委員3名よりそれぞれ評価をいただいた。

#### 4. 自己評価に基づく学校関係者評価

##### 【1. 教育理念・目標・育成人材像】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	適切 3名
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	
学校の教育理念に沿った①アドミッションポリシー ②カリキュラムポリシー ③ディプロマポリシーを設定または改訂できたか。	4	

<ご意見・評価等>

○学校案内・HPで織田きもの専門学校の強み、目指せる職業などを明記している点が評価できる。

○既に明文化されているとある3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）についてもHPで公開するのが望ましい。

○理念と目標について、少子化により国内学生の減少が避けられない今日、IT・DXを強化し海外への発信力を高めることで、日本文化に興味を示す人材が世界から集まってくると考える。

○学生の夢の実現に向け、心の成長と専門スキルの学び舎として学生に寄り添いながら一緒に取り組む姿勢が感じられる。

○どんな人材を育成したいかなどのポリシーが入学案内からもよく伝わってきた。インターネットを活用して更に多方面に認知を拡大していただきたい。

##### 【2. 学校運営】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	適切 3名
外部関係者の評価（学校関係者評価委員会）を有効に活用できたか。	4	
入学定員は適正に設定されているか。	3	
効果的な教育成果を得ることを目的として教育課程の見直しがされたか。	3	
各種検定の合格率向上のためカリキュラムの再確認及び改訂が行われたか。	3	
外部企業等に強い外部講師等は有効に活用できたか。	4	
コラボ企業や就職先等から教育ニーズを聴取したか。	3	

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	
----------------------------	---	--

<ご意見・評価等>

- 概ね適切に学校運営が成り立っていると思われる。
- 業界のニーズを取り入れカリキュラムに活かす努力を続けていただきたい。
- 学生からの授業評価を実施し、より良くできる点を把握してカリキュラムに反映する姿勢を取るのが望ましい。
- コロナ禍で制約を受けた昨年の学校運営と比較し、今年是对面授業の尊さを改めて感じた。一方でリモート授業によるデジタル化推進の好機ともなると考える。通常授業に戻ったとはいえ、リモート授業と組み合わせることでより合理的に授業運営ができるのではないだろうか。
- 学生の関心が高いあるいは季節のテーマを取り入れたコンテンツを、各プラットフォームで発信することで将来の志願者増に繋がるのではないかと捉えていただきたい。
- 教育の方向性として学生の「知識の向上に取り組む」とあるが、もう少し具体的にどのような知識を向上させるかを理念等に明記するとより望ましい。

### 【3. 教育活動】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	適切 3名
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	
実践的な職業教育（産学連携教育、インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	
授業評価を実施し、その評価体制はあるか。	4	
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	
教員間で様々な悩みについて共有できる職場環境であったか。	4	
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	4	

<ご意見・評価等>

- 授業は企業との連携も含め、実践的な職業教育が行われていると判断できる。
- 先も挙げたが学生からの授業評価の実施が望ましい。
- 対面授業とオンライン授業を効率的に組み合わせるものの検討も進めてもらいたい。
- 企業とのコラボレーションなど体験型のカリキュラムが導入されており、知識・技術・体験（経験）がバランスよく取り入れられている。

○教育に対する積極的な姿勢や相談しやすい環境作りのため、研修等を実施し教員の技術力・人間力に努められている点が評価できる。教員の魅力について外部に発信することも視野に入れてはどうだろうか。

#### 【4. 学修成果】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
生活支援の充実化は図れたか。	4	適切 3名
教育支援の充実化は図れたか。	4	
就職支援の充実化は図れたか。	4	

<ご意見・評価等>

- コロナ禍で就職が厳しくなっている業界もあるので、就職支援にはとりわけ力を入れ、学生の将来を見据えた指導に邁進していただきたい。
- 生活面や精神面で学習の継続が困難になる学生もいると思われるので、その支援も継続していただきたい。
- コロナ禍に対する学生への支援などは志望学生にとってのアピールになると考える。
- 学生が制作した作品や企業コラボレーションの記録など学習成果を HP にライブラリーを作ってレガシーを構築することが望ましい。今後入学する学生が過去から学びを得る機会を作ることにもなる。また、毎年定量化・適正化し、改善を進めることもできる。

#### 【5. 学生支援】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	2	適切 3名
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	3	
卒業生への支援体制はあるか。	3	
学生情報の教職員間での共有は効果的に行えたか。	4	
保護者との連携は適切だったか。	3	

<ご意見・評価等>

- 地方出身者の退学者が少し目立ったように感じる。心の問題を抱えた学生に対して、担任やカウンセラーによる相談体制の充実・強化を図っていただきたい。
- 学生や保護者とのコミュニケーション機会の確保は引き続き大切にしていきたい。
- 退学率についてコロナ前とコロナ後を比較すると増えているようだが、それ以前からの傾向値も並べて原因を究明すべきである。
- 地方出身者、遠距離通学者の退学が増えたとのことだが、生活維持ができなくなった学生も多いように思慮する。

○コロナなどによる不安定な社会情勢もあり、メンタルに問題を抱えやすい環境だと感じる。保護者と連携を取るなどして学びの環境の維持に努められているという点が評価できる。

#### 【6. 教育環境】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	4	適切 3名
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3	

<ご意見・評価等>

○Wi-Fiの整備を推進し、インターネットを活用することで授業内容をより良くすることを検討していただきたい。

○教育設備を最新のものにすることも検討していただきたい。

○防災のための備蓄品は確保に関しては引き続き怠ることのないように管理を徹底していただきたい。

○教育機器、設備等定期更新のものや新規設備投資、備品購入等当初予算に納まらない場合の適切な対処方法も検討しておくことが重要である。

○ここ最近では地震が多いこともあり、防災訓練などを開催してはどうか。

#### 【7. 学生の受け入れ募集】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
OC参加者の増加は達成できたか。	3	適切 3名
OCからの取り込み率は向上できたか。	3	
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	
OC時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	
OCの結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	
SNS等、学校の認知PRは適切に行えたか。	4	

<ご意見・評価等>

○HP、SNSなどで情報発信を適切に行っていることは評価できる。オープンキャンパスも学生の協力を得て実施されているとのことなので問題はない。

○広報物をいつも工夫されていることが伝わる。

○高校訪問を定期的に行い、高校教員への認知を得る努力、校内ガイダンスへの参加などの取り組みも引き続き積極的に取り組んでいただきたい。

○感染症の影響が続き、地方からのオープンキャンパス参加者が減ったとあるが、HPの活用や広告宣伝の工夫など別のアプローチ方法もあるのではないかと考える。

○広報物を制作する場合は広報担当者と教員だけでなく、近年入学した学生の意見も積極的に取り入れることで改定すべきコンテンツがより明確になるのではないかと考える。

○対面でのオープンキャンパス実施が大変であったことが伝わる。学校の良さを引き続きSNSで発信し続けていただきたい。

【8. 財務】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	3	適切
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	2名

<ご意見・評価等>

○財務情報がHPに公開されていることは評価できる。

○全教職員に財務状況や中長期計画を周知するとともに、共通理解を図ることが重要である。

○支出削減では、学生数がより減少に転じていくと考える。学生数を確保する施策には投資を行い、よりDX化を推進し、学生数を増やすことでの黒字化を念頭におくのが望ましい。(現状では不適切だと判断した)

【9. 法令等の遵守】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
コンプライアンス意識を再確認できたか。	4	適切
自己評価の結果を公開しているか	4	3名

<ご意見・評価等>

○最新の年度の自己評価報告書、学校関係者評価報告書をHPに公開できるように改善された点は評価できる。

○過去年度の報告書も閲覧可能な状況を作ることがより望ましいと言える。

○今後修学支援制度の対象校となった際も十分な情報をWEBサイトで公開すべきである。

○SNS 等の情報管理についてはどのようにコンプライアンス規定をされているのか、明確にすべきと考える。

【10. 社会貢献・地域貢献】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか。	4	適切 3名

<ご意見・評価等>

○コロナ禍で学園祭が中止になったことは残念だが、今後は感染症対策を行った上での実施を前向きに検討していただきたい。

○「なかのまちめぐり」など、地域のイベントが再開された折には積極的に参画していただき、地域貢献に努めていただきたい。

○SDGs の観点から見ても、きものは究極の再利用可能商品である。きものを通して”モノ”の再利用が更に拡大すれば社会貢献に繋がる。

【11. 国際交流】

評価項目	自己評価	学校関係者評価
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	2	適切 3名

<ご意見・評価等>

○留学生の入国も国の規制緩和で今後は増えてくると思われるので、留学生の受け入れも適切に行っていくことが望まれる。

○国際交流機会の確保は準備を進めておき、再開の目途が立った際に対応できるように努めていただきたい。

○フランスは日本文化に対する興味が高く交流が進むのではないか。



## 5. 総評

- 東京では数少ないきもの専門教育を行っている学校として積極的に情報発信をし、業界と連携して人材育成を図っていただきたい。
- SDGs ときものを関連づけたカリキュラムの拡充に是非取り組んでいただきたい。
- コロナウイルスによる特殊な時期が約 2 年間経過し、これから更に少子化が進み学校は淘汰されることが予測される。この大変な時期である今を変革のチャンスと捉え、学生が持っている意見を取り入れ、海外への情報発信強化による留学生枠の拡大等を行い、今後業界で活躍できる人材を育成する学校として確かな地位を維持されることを願う。
- 教育理念に掲げられている「学生の夢」を実現するための意見に耳を傾け、環境を整え、入学者が増える状況作りが肝要である。「必要投資は大胆に、無駄な費用は積極的に削り、メリハリを」で取り組んでいただけることを望む。
- きものは母娘の絆を深めるものでもある。きものショーなどのイベントで、祖母や母がきものを着用しているシーンを背景の映像として流し、娘さんがその生地を再利用してリメイクしたきものを着用してランウェイを歩くなどすれば、多くの方々の共感を得られるのではないかと考える。
- 伝統を大切にしながらも、きものという文化を現代に合った形で継承していこうと努力されている姿勢が伝わってくる。卒業生としても織田きもの専門学校で学べて良かったと感じる。

織田きもの専門学校  
学校関係者評価委員会